

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護総合演習 V Care Practice Support V		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
2年次前期までの必修科目の修得、居宅介護実習Ⅲ以外の実習の終了				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
新井文子/久保由佳	福祉棟2階	初回授業にて説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
卒業時共通試験は、毎年卒業年度の2月に全国一斉におこなわれており、出題基準は介護福祉士の国家試験に準じている。受験に必要な知識と効果的な学習方法を習得し、合格点を取得するための受験対策を中心としている。今期は居宅介護実習Ⅲとして、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）実習を一人2日間おこなうため、この実習に関するオリエンテーションと反省会をおこなう。				
授業の目標				
①卒業時共通試験と介護福祉士国家試験とを関連させられるようにする。 ②出題基準に照らし合わせた既習学習の内容を確認できるようにする。 ③模擬試験を活用した効果的な学習ができるようにする。 ④認知症対応型共同生活介護（グループホーム）実習の学びを説明できるようにする。				
授業の方法				
演習科目であるが、講義・模擬試験・グループ学習を取り入れる形式である。				
学習の成果（学習成果）				
①卒業時共通試験の合格点を取得できるよう、効果的な学習方法を習得することができる。 ②認知症対応型共同生活介護（グループホーム）実習の学びを共有することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、本科目設定の意義、卒業時共通試験の位置付け（第1回～15回担当：新井・久保）			
第2回目	卒業時共通試験の概要（公益財団法人社会福祉振興・試験センターのホームページ）と既習学習の確認			
第3回目	居宅介護実習Ⅲ オリエンテーション、テキストの活用方法、模擬試験問題を活用した学習の方法、グループワークの進め方			
第4回目	グループ学習① 第1回模擬試験（7月実施済み）の活用			
第5回目	グループ学習② 第1回模擬試験（7月実施済み）の活用			
第6回目	介護福祉士に関連する各法律の確認、各種データによる近年の動向等			

第7回目	第2回模擬試験（別日程を含む）	
第8回目	グループ学習③ 第2回模擬試験の活用	
第9回目	グループ学習④ 第2回模擬試験の活用	
第10回目	第2回模擬試験の学生による解説、補足説明	
第11回目	居宅介護実習Ⅲ 反省会（振り返りレポート）	
第12回目	第3回模擬試験（別日程を含む）	
第13回目	グループ学習⑤ 第3回模擬試験の活用	
第14回目	第3回模擬試験の学生による解説、補足説明	
第15回目	まとめ、第4回模擬試験の説明（2月初め、別日程により実施）	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	40%	毎回出席し、自主的にメモしている。グループ学習に真面目に取り組み、わからないことは積極的に質問している。実習反省会時には事前課題であるレポートを完成させ、持参している。
レポート	10%	居宅介護実習終了後の振り返りレポート S：提示された項目について、適切にまとめ反省会時に持参している。
調査報告書		
小テスト		
試験	20%	模擬試験を2回（第2回・第3回）実施する。 S：2回分の模擬試験結果の平均が75点以上
発表内容（態度含む）	20%	模擬試験後の学生による解説時には、事前に調べる確に説明している。実習反省会では、提示された項目について適切に発表している。
その他	10%	指示されたテキスト類を準備している。
教科書と参考図書		
①「介護福祉士国家試験模擬問題集2017」 中央法規出版 ②「介護福祉士国家試験受験ワークブック2017 上・下」中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
卒業時共通試験は2年間のまとめの試験である。合格点を取得するために、自主的かつ積極的に取り組んでほしい。模擬試験については居宅介護実習や就職活動状況等により日程を変更することがある。		